



## Minami-hatoba\_1(Shirouyasu\_Suzuki)

2007-01-31

清水邦夫作『あの、愛の一群たち』を読む。

30日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、情報が伝達されるためには、多くの神経細胞を巻き込んで発火させなければならないと書いてあった。ハイビスカスの花のアップを撮る。仕事場に行って、日録ノートしてから、清水邦夫作『あの、愛の一群たち』(1980)を読む。内容はちょっとややこしいが、2年前に弟を亡くした40歳代の女ふねは郷里の町の資料館を訪ねる。と、そこに、精神病院を裸足で抜け出してきたしのぶが朱鷺のパネルの下にいて、姉のぎんに隠されている夫(あの人)に会いの来たのだという。ぎんの話では、しのぶの夫は存在しないが、しのぶの願望に合わせて、非在の夫を次々に再生させている。そして、偶々会ったふねの弟を夫に仕立てようとして、弟は既に死んでいたので失敗する。女3人が話しているうちに、祭りの鼓笛隊が何度か乱入してくる。実は、この姉妹は女学生の時、「朱鷺の会」のリーダーで、滝つぼに朱鷺を見つけたという少年が、姉妹の目の前で滝つぼに落ちて死んでしまったのだ。その事件が原因で、姉妹の父が作った資料館に抗議に来た連中の一人が近くの納屋に放火して、風にあおられて町は大火になったのだ。そのためにしのぶの精神が壊れてしまったというのだ。2時過ぎに、きつね蕎麦を作って昼食。仮眠。3時半ごろ、米を研いで炊く、野菜を切って、カレーの下ごしらえをする。コーヒーを飲む。百科事典の「演劇」「日本の演劇」の項目をコピーして読む。非常に詳しく書いてある。夕刊を見る。カレーを作る。6時半過ぎに、カレーができて夕食にする。仮眠。イメージフォーラムの澤さんから電話がある。卒制講評にはまだでられないと返事する。『あの、愛の一群たち』についてメモする。[ハイビスカスの花のアップ](#)をBlosxomblogに入れる。10時からNHKスペシャル「インドの衝撃」の3回目の政治と外交を見る。インド国内の貧しい農村、その凄い経済格差、政治的に存在感のある大国へ道を進むインドという国の姿。その後、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入った後、林檎小一個、薩摩芋一切れ、煎餅2枚、牛乳。薬とサプリメント。「灰皿町blog日記」を書き上げる。

01:16:26 - shirouyasu - No comments

2007-01-30

清水邦夫作『火のようにさみしい姉がいて』を読む。

29日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、情報を伝達する時に神経細胞は一つの刺激に一度発火するのではなく、10ヘルツとか40ヘルツとか波状的に何度も発火して、伝達していくのだと書いてあった。仕事場に行って、日録ノートしてから、加圧リハビリをやっている小田切病院に予約の申し込みをする。予約の申し込みが多いので調整して返事をくれるといわれる。清水邦夫作『火のようにさみしい姉がいて』(1978)を読み始める。2時頃、残りのおでんで昼食。ハイビスカスの花を撮る。仮眠。3時過ぎの起きてコーヒー。仕事場に行って、『火のようにさみしい姉がいて』を読み終える。内容は、俳優生活に疲れを感じてきた40過ぎの俳優の男が妻と郷里に帰り、バス停の場所を聞こうと入った理髪店で、店主の女と客の元薬売りをしていた老婆たちの悪意に捉えられて、暴力沙汰に巻き込まれて、脱出できなくなったところで、見ず知らずの男が弟と称して現れ、更に店主の女が実は姉だと言い始め、遂にその言葉に従って姉と認め、帰ろうとする間にその姉と男の間に生まれた子供の位牌を川に流していくようにいわれ、その時、妻が自分の方が男より才能があると宣言するので、男は妻の首を絞めるが、倒れた妻を抱き起こそうとするとところで終わる、というもの。鏡のある空間。過去の人々。幕開けはオセロー公演の男の楽屋で、全編を通してオセローが妻のデスデモーナをな

### Navigation

[Previous 月](#)  
[Next 月](#)  
[Today](#)  
[Archives](#)  
[Admin Area](#)

### Categories

[All](#)  
[General](#)

灰皿町の本

●[幻想小説『なめくじキーホルダー』清水鱗造](#)

●[「週刊読書人」詩時評一九九二-一九九三年 清水鱗造批評集 第二分冊](#)

### Search

じり殺す場面が何度か繰り返される。7時過ぎに麻理がハンバーグを焼いて、みそ汁と作って一緒に夕食。仮眠。9時過ぎに起きて仕事場へ行き、[続けて四つ目が咲いたハイビスカスの花](#)をBlosxomblogに入れる。それからNHKスペシャル「インドの衝撃」の増大する消費を扱った第2回目を見て、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、林檎、薩摩芋半欠け、角きんつば4分の1、煎餅2枚、牛乳。葉とサプリメント。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書き上げる。

01:05:47 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-29

清水邦夫さんの作品を二つ読む。

28日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、神経細胞の情報伝達は神経伝達物質によって行われるが、この神経伝達物質は何百種類もあって、細胞によって、また刺激によって異なるということが書いてあった。仕事場に行って日録を書いてから、先ず、渋谷図書館から借りている「清水邦夫全仕事」の貸出期間の延長を図書館のHPで行う。それから清水邦夫『花飾りも帯もない冰山よ』

(1976)を読む。内容は、40歳の誕生日を迎えた男が一人が、部屋で一人ウイスキーを飲みながら、ひょっこり出て来た10年前のセーターを懐かしみ、顔を埋めたりして臭いを嗅ぎ、手を通して着ようとするすると悲鳴が聞こえる。男が振り返ると、そこには会ったことがあるような、でも思い出せない「あいつ」の部屋になっている。そのあいつと男との対話が始まり、「あいつ」は俄に弟になり、雪の穴に父親を埋めようとした話を語り、自分が埋められたと話したり、と突然兄弟をお客にしていたという売春婦になったりする。最後に、男がセーターを脱ごうとすると、あいつがセーターを切り裂き男を殺してしまうというもの。読み終わったところに、多摩美の卒業生の井上さんと福村さんからお見舞いの電話があった。3時頃、おでんの残りで昼食。仮眠。4時過ぎにコーヒーを入れて飲み、仕事場に行って、清水邦夫『夜よ おれを叫びと逆毛で充たす 青春の夜よ』(1976)を読む。内容は、にしんが来なくなった漁村のにしん番屋で、狂った兄と心を通わせようとする弟が、顔も忘れたという5歳しか離れていない義母の存在を認めさせようとして、嘘の話として持ち出した犯罪の話の成り行きから、十数年前に義母の下着を隠していたのを見つかり、折檻された仕返しに兄が父を裏切った密告者になったこと、また兄に愛されていた義母が兄を守って、父を海に突き落として殺したことが分かり、弟は義母を絞め殺してしまい、兄弟で義母の死体を長持ちに入れて、「夜明けに、長持ちごと海に沈めてやる.....そうすれば、この女は永遠に海の底だ.....」ということで終わるといふもの。ここに出て来た兄弟と義母という構図は、後に何度か出てくる人物設定に見られる。7時過ぎに、麻理がアジのの干物を焼いて、おでんの残りとで夕食。寝室に行ってベッドに横になって、NHK大河ドラマ「風林火山」を見て、続けてNスペの「インドの衝撃」を見る。中学校のない村の出身の青年が入試60倍の国立工科大学の受験を目指して必死に勉強している姿が印象に残った。仕事場を下りて、[咲きかけたシクラメンの花](#)をBlosxomblogに入れる。「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、林檎、薩摩芋一切れの半分、角きんつば半分、牛乳。葉とサプリメント。「灰皿町blog日記」を書き上げる。

00:54:56 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-28

清水邦夫『幻の心もそぞろ狂おしのわれら将門』を読む。

27日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、脳の神経細胞は「脳」の中の「脳」という言えるようなもので、神経細胞はカオス的システムとして働いているという。ちょっとした刺激で全体が一度に働くが、フラクタル図形や洗面器の排水口に向かう水のように一点に向かって収斂していくということだ。[赤い小さなシクラメンの花](#)を撮って、仕事場に行ってBlosxomblogに入れる。mixiを見てか

### Login

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

Powered by



ら、先日送られてきた松林さんの短い映像作品をeMacで何度か見る。昨夜の餃子の残りで昼食。仮眠。うとうとしながら、NHK・BS再放送の「世界一美しい村に住む人々〜イギリス コッツウォルズ〜」を見る。1920年代の祖母から女性3代にわたって守られてきたという「キフツゲートガーデン」が印象に残る。庭に情熱を注いでいる。3時半頃起きて、おでんを煮始める。ジャガイモの扱いがまずかった。コーヒーを淹れて飲み、夕刊を見る。仕事場に行って、松林さんに映像作品の感想を書いて、メールで送る。それから、清水邦夫作『幻の心もそぞろ狂おしのわれら将門』（1975）の後半を読み終える。内容は、朝廷からの独立国の建設を目指した平将門の一味が、藤原秀郷が指揮いる朝廷の軍勢に追いつめられて次々に影武者を立てて、裏切り者を処分して生き残りを計るが、狂った将門は自分を小賢い土地盗人の将門という者を探し出して成敗する武者と思いこんで、幻の将門を追い続けることで、自分だけが生き残るという話、として舞台は展開する。流民の出で将門の家来の兄の三郎は将門の参謀で、次々に影武者を立てて逃げ延びる策略を練り、その影武者になっている弟の五郎は将門の妻の桔梗の口車に乗って将門自身になって見せようとしたために、将門に仕立てられて敵の面前で狂った将門に斬り殺される。将門の妻の桔梗は二重人格者になった将門から見放されたと思い自害する。将門に盲目にされた三郎五郎の妹の歩き巫女のゆき女は、最後に三郎への愛のために三郎を刺し殺し三郎に斬り殺される。愛の形として、肌の冷たい桔梗と獣のように肌の温かいゆき女という存在のあり方。敗者が幻の敗者を追うということで生き延びていくループが作られている。7時過ぎに麻理が帰ってきて、一緒におでんで夕食。寝室で仮眠。アルツハイマーの番組を見ながらうとうとする。9時過ぎに仕事場に行って、『幻の心もそぞろ狂おしのわれら将門』についてメモを取る。それから、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、林檎、薩摩芋ひとかけら、大福半分、煎餅小一枚、牛乳。薬とサプリメント。また仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書き上げる。

00:47:04 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-27

清水邦夫作『ぼくらが非情の大河をくだる時 -新宿薔薇戦争-』を読む。

26日に朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、神経細胞が情報を伝えるのは電気エネルギーによって、つまり脳内伝達物質のプラスマイナスのイオンの交換によってなされると書いてあった。神経細胞は単なるスイッチのオンオフとして働くのではなく、高度なコンピュータのように複雑な仕方で伝達するということだ。黒豆を煮始める。煮汁を作って、そこに洗った黒豆を入れる。[白いシクラメンの花](#)をBlosxomblogに入れる。栗原さんから送られてきた「のぞみ」という人工関節を入れた人たちの機関誌を読む。その日常生活の実感が励ましになる。麻理がキノコ蕎麦を作って昼食。仮眠。コーヒーを淹れて飲む。麻理は買ってきた餃子を焼いて、黒豆の鍋に火を入れて出掛ける。仕事場に行って、清水邦夫作『ぼくらが非情の大河をくだる時 -新宿薔薇戦争-』（1972）を読む。内容は、ホモの人たちが集まる新宿の公衆便所で、その公衆便所の地下に薔薇戦争で死んだ死者が埋まっていると言い張る詩人で狂った弟の言うことを受け入れて行動する兄と父親の話。弟を捨てられない兄は、その弟の幻覚に振り回されて弟をナイフで刺し殺してしまい、その死んだ弟を背負って兄は父親を促して地下に死体が埋まっている筈の別の公衆便所へ向かうというもの。読み終わった後、『蜷川幸雄伝説』のこの芝居の公演のところを読む。演出した蜷川幸雄は自分たちの芝居が「やせ細ってきた感じで」現実とずれてきているのを感じた書いてあった。7時頃、餃子とみそ汁を温めて一人夕食。寝室のベッドで仮眠。9時頃仕事場に行き、『幻の心もそぞろ狂おしのわれら将門』を読み始めて半分程読む。「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、林檎、薩摩芋、大福半分、煎餅、牛乳。薬とサプリメント。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書き足す。

00:42:25 - shirouyasu - No comments



**2007-01-26**

清水邦夫作『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』を読む。

25日の朝、朝食を食べる前に、昨夜、mixiの日記にサーバーエラーでできなかったリンクをつける。トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、前頭葉の「作業記憶」ということが書いてあった。統合された刺激から認識された概念をイメージや言語と結びつけて外界に「対処」するまでの働きをするということだ。昨日からWebのいろいろな体験記を読んだ結果、手術は先に延ばして、「加圧トレーニング」で壊死の進行を止めるか遅らせるかすることができるか、やってみようという気になってきて、「加圧トレーニング統括指導者」の資格を持つ整形外科の医師の人にその効用についてたずねるメールを出した。昨日と同じネギとキノコの汁蕎麦で昼食。その後ベッドに横になって、テレビの「はぐれ刑事純情派」をうとうとしながら見てしまう。コーヒーを淹れて飲んでから、仕事場を下りて、[昨日と今日のハイビスカスの花](#)をBlosxomblogに入れてから、清水邦夫作『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』（1971）を読む。内容は、秩序からはみ出した存在のアーナーキーな力を見せるというようなもの。チャリティーショーの爆弾騒ぎから始まって、その手製爆弾を持ち込んだ二人の青年の裁判に、祖母の鴉婆と虎婆が仲間のかいせん婆、とむらい婆、ばくだん婆など十数人の婆を引き連れて行って、鴉婆が始め証人として出廷するが、裁判長のいうこと聞かずに退廷を命じられたところから、笛を吹いて仲間を呼び入れて法廷を混乱に陥れ、裁判長、検事のズボンを脱がせ、検事を裁判に掛けて死刑にし、そして更に孫である青年たちも裁判に掛けて死刑にして、最後に、老婆たちは美青年に変身するが、法廷を包囲した機動隊の一斉射撃で全員撃たれてしまい、生き残ったのは弁護士だけということになる。高橋豊著『蜷川幸雄伝説』をよると、全共闘運動が盛んだった当時、上演された「アートシアター新宿文化」の観客の盛り上がりは大変なものだったようだ。わたしは、当時、唐十郎の「赤テント」には行ったが、この公演には行かなかった。7時頃、昨日のヒレカツが一枚残っていたので、カツ丼を作り、みそ汁も作って、一人で夕食。食後ベッドで仮眠。「新・京都迷宮案内」をうとうと見る。仕事場を下りて、高橋豊著『蜷川幸雄伝説』の『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』の上演のところまで読む。それから「灰皿町blog日記」を書く。野村健太さんから彼のBlog「[みみのまばたき](#)」に『衰退いろいろ2002』と『極私的に臨界2003』の感想をアップしたというmixiのメッセージが届いて、それを読む。またまた、映像作品が丁寧に言葉で迎られていて、作者としてとても嬉しい。風呂から出て、林檎、薩摩芋、どら焼き、煎餅、牛乳。葉とサプリメント。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書く。

00:56:32 - shirouyasu - No comments

**2007-01-25**

清水邦夫作『あなた自身のためのレッスン』を読み終える。

24日に朝、読んだ『脳と意識の地形図』には、刺激が連合野でまとめられ、記憶と照合されて、認識された意識になっていく過程が書いてあったが、この書かれた経路は読んだなりに、どうも全体としてイメージがまとまらない。Webを見て、メールの返事やmixiのコメント。2時過ぎてネギとキノコの汁蕎麦を作って昼食。ベッドに横になってテレビの「はぐれ刑事純情派」を見る。コーヒーを淹れて飲み、仕事場に行って、清水邦夫作『あなた自身のためのレッスン』（1970）を読み終える。内容は、記憶喪失と家族関係を絡めたもの。環境汚染の公聴会が終わって、舞台の後片づけも済み、裸になった市民ホールの舞台上、記憶喪失になった三人の人物、役名が「青年のあなたA」、「若い女のあなたB」、「中年のあなたC」が逃げ込んでいる。ホールの管理人夫妻がここで上演された芝居のセリフで遊びながら、舞台のバトンのパイプに洗濯物を干し始めるところに、消防署長とその姉子一子が記憶喪失の三人を追ってきて、記憶を取り戻させようとするが、「あなたA」によって家族からの解放を未来に目指して組織化されている三人は、言葉で

互いの牽制しながら「チー子の夫、父=警官」「息子」「娘」であることを拒否する。争ううちに「まさかり」という言葉が出たところで一幕は終わる。二幕目は、家具と名付けようのない奇妙なものが雑然と運び込まれ舞台上、チー子と三人が管理人夫妻を巻き込んで、仮の「家族芝居」を演じているうちに、「C」と「B」が「十七歳の弟」を演じた「A」を、妹を犯そうしたために、以前殺したように殴り殺してしまう。署長と姉と夫と娘の家族に戻った四人が去った後、管理人夫妻が屍体をホールの地下に通じる穴に投げ込んで終わる。家族という枠、記憶喪失、劇中劇という清水さんの劇の作り方ができあがって来るという印象だ。Blosxomblogに[ハイビスカスの花](#)を入れる。お母さんのところに行った麻理が帰ってくるのを、ジャガイモとワカメのみそ汁を作り、夕刊を読んで待つ。8時過ぎに帰ってきて、買ってきたヒレカツと一緒に夕食。寝室に行きベッドに横になって「相棒」を見る。仕事場を下りて、「灰皿町blog日記」を書く。風呂から出て、林檎、薩摩芋、どら焼き半分、煎餅一枚、牛乳。薬とサプリメント。「灰皿町blog日記」を書く。

00:58:34 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-24

**Web**で大腿骨頭壊死症の手術の体験記を読む。

23日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、脳の各部分の名称が書いてあった。もう何度も読んで図を見たが一向に覚えられない。昨日、右大腿骨頭壊死症という病名を書いたので、mixiやblogにコメントを貰ったりメールを貰ったりした。また、その手術のいろいろな人の体験記を読む。[白いシクラメンの花](#)をBlosxomblogに入れる。2時過ぎて、長ネギの汁蕎麦で昼食。仮眠。4時頃起きてコーヒーを淹れて飲む。初めて杖を使って郵便を出しにポストまで歩いて往復する。杖をつくとかかなり楽だ。それからまた体験記を読む。その中に「加圧トレーニング」で大腿骨頭壊死症の痛みを無くしたと書かれているのがあった。更に、野々歩がメールで知らせてくれた加圧トレーニングをやった人のサイトを読むと、壊死した骨が再生したというようなことが書いてあった。壊死した骨が再生するなら、加圧トレーニングをやってみたいという気になってくる。読みふけっているうちに、8時近くになっている。麻理が帰ってきてみそ汁を作って、わたしは煮物の残り夕食。麻理は食べてきたと云い、黒豆だけ食べる。仮眠。目が覚めたら10時。仕事場に行き、「加圧トレーニング」のサイトを見る。それから「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、居間で、りんご、さつまいも、どら焼き半分、牛乳。薬とサプリメント。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書く。

01:39:02 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-23

**MRI**検査の結果の診断にショックを受ける。

22日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、感覚からの刺激を受け止める神経細胞の一つ一つは、その受け止めるべき刺激が決まっていて、赤の光を受け止める神経細胞は赤にしか反応しないと書いてあった。10時過ぎに麻理にタクシーを拾って来て貰って青山病院へ行く。整形外科で小澤医師にMRI検査の結果を聞く。小澤医師の診断は、先日のMRI検査のフィルムを前に、股関節の黒くなっている部分を示して、「右大腿骨頭壊死症」になっているということだった。つまり、股関節の骨が死んでいるので、そこに金属の骨頭を入れる手術をする必要があるということだった。現在の炎症が取れて痛みがなくなっても、だんだんと「骨頭壊死」が進めばやがては歩けなくなるだろうということだった。更に、もっと歳を取ると、体力が衰えて手術さえ出来なくなるということ。ということは、手術するしかないということだ。ショックだった。しかし、命に別状はないから手術しないでもいいということでもある。次の診察日までに手術するかしないか、するならいつごろするかを決めて来るように言われた。出来るだけ右脚に負担を掛けないよう

に杖を使いなさいと言われて、売店で杖を買った。病院前でタクシーを拾って、乗ってしまってから薬局で薬を処方して貰うのを忘れて、もう一度病院前の薬局まで戻って、タクシーを待たせて、薬を買って帰る。麻理とキノコ入りのうどんで昼食。仮眠の後、出掛ける前に咲きかけていたハイビスカスの花が咲いているのを撮って、仕事場に行き、Webで「大腿骨頭壊死症」を検索して、手術を受けた人の体験記のサイトをいろいろと見る。まだわたしの場合は軽いようで、両足の股関節に人工関節を入れる二度の手術をしているような人もいた。人工関節を入れた後は普通に歩けるようになってきているようだ。7時過ぎまで体験記のサイトを見て、麻理にも見て貰い、麻理がイワシを焼いて、大根の煮付けとみそ汁で夕食。ベッドで、浮かない気分で仮眠。9時廻って起きて、台所の汚れた鍋と茶碗などを洗ってから、仕事場に行ってまた体験記のWebサイトを見て、[今日の午後に咲いたハイビスカスの花](#)をBlosxomblogに入れて、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、林檎、薩摩芋、どら焼き半分、割れ煎餅を食べ、牛乳を飲む。薬とサプリメント。また仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書く。

00:49:21 - shirouyasu - 3 comments

## 2007-01-22

黒豆を煮て、生タラコと大根を煮る。

21日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、「脳はだまかに言って『三階建て』構造になっている。一階は脳幹と中脳、二階は大脳辺縁系、そして三階は大脳皮質（しわが寄った灰色のところ）である。どの階も、脳幹から勢いよく上がってくる興奮性の神経伝達物質（神経細胞が発火する引き金になる化学物質）によって活動が起こる」と書いてあった。前に買った黒豆があったので、煮ることにして、袋に書いてある通りに煮始める。砂糖醤油などを入れた煮汁を作りそれに四、五時間つけておくがあったので、その通りにして、庭に出てカニサボテンを撮る。脚の痛いのが少しよくなった感じ。ご飯がなくなっているのに気がつき米を研ぐ。仕事場に行って日録ノート。Webで「劇団青俳」を検索したが、劇団青俳にいた俳優たちの名前は出てくるが、肝心の「劇団青俳」はなかった。カレーの残りの最後でカレー蕎麦を作って昼食。仮眠。3時過ぎ、麻理が買ってきてあった生タラコと大根を煮る。同時に蕪のみそ汁を作る。両方が出来て、相撲中継を見る。朝青龍が琴欧州を裏返す。黒豆を再び火に掛けて煮る。仕事場に行って、清水邦夫作『あなた自身のためのレッスン』を読み始める。半分読んで、7時になってみそ汁を温めて、生タラコと大根の煮付けで夕食。丁度帰ってきた麻理は、食事は済ませたといって、大根の煮付けと黒豆だけ食べる。食後、寝室に行ってベッドに横になって、NHK大河ドラマ「風林火山」を見て、仕事場に行き、Blosxomblogに[カニサボテンの花](#)を入れながら、仕事場のテレビでNスペ「グーグル革命の衝撃」を見る。そして「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、林檎、薩摩芋、煎餅、牛乳。薬とサプリメント。また仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書く。

00:17:50 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-21

清水邦夫作『真情あふるる軽薄さ』を読む。

20日の朝は目が覚めたら8時半を廻っていた。テレビのニュースショウを見て10時近く起床、朝食、朝刊。トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、意識には一体感があるが、神経細胞がそれぞれ機能を持ったところに位置づけられるから、というようなことが書いてあった。清水邦夫作『真情あふるる軽薄さ』（1968）を読み始めて、途中で、2時半過ぎにカレー蕎麦を作って昼食。寝室で仮眠。4時過ぎ、麻理が買ってきた南瓜を煮る。コーヒー。夕刊。相撲中継を見て、豊ノ島が安馬に負けて残念。仕事場に降りて、『真情あふるる軽薄さ』を読了。内容は、何かの切符を買うための行列に毛糸編機を背負った一人の青年が割り込もうとしていざこざ



を起こし、行列している人たちに「さすらいの日本人」などといって絡んで悪態をつき始める。あとから来た一人の女がこの青年に好意を持ち、彼を挑発する。また一人の中年男が来て、青年を理解するように周囲にいい、自分はこの青年に財産を譲るなどと彼を弁護する。しかし、最後に中年男の言いぐさにいらだった青年は毛糸編機のケースから取りだしたマシンガンで撃つが、人々は死なない。自分の方が死んだマネはうまいと女に撃たせて倒れたところで、中年男の合図で整理員たちが青年を棍棒で殴り殺してしまう。女も青年の上に倒れて、中年男の「行列を乱すな！乱す奴は容赦なく殺せ！」で終わる。1970年前後の「全共闘運動」を色濃く反映しているといえるが、ほとんど「青年」が一人でしゃべるまくるそのセリフによって成立させる演劇がここで成立したいえるようだ。7時過ぎに刺身と南瓜の煮付けとで麻理と夕食。寝室で仮眠。9時頃仕事場に降りて、Blosxomblogに[白いシクラメンの蕾](#)を入れて、メールなど。それから『真情あふるる軽薄さ』のメモを取り、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、林檎、薩摩芋、煎餅、牛乳。そして、薬とサプリメント。また仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書き上げる。

00:40:13 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-20

清水邦夫作『あの日たち』を読む。

19日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、例え話のゾンビの飛行船に重ねて、様々な刺激を認知する神経細胞のグループが刺激の変化のあり方を学習して対応する情報処理のことが書かれていた。「清水邦夫全仕事1958~1980」に掲載されている「磨り硝子ごしの風景 ー自作解説にかえて」という文章をパソコンでコピーして、テキストでも取り込む。蕎麦を茹でてカレー蕎麦にして昼食。といっても3時近くになっていた。仮眠。4時頃居間のテーブルでコーヒーを飲んで相撲中継を見て、夕刊を見る。それから仕事場に行き、清水邦夫『あの日たちー忘却と時間についての抒情的仮説』（1966）を読み始め、7時半過ぎに読み終わる。内容は、九州のある炭坑町の郊外にたつメンタル・リハビリテーション・センターで、炭鉱事故で記憶を失った患者たちと医局員と訓練員と看護婦と一人だけ無事だった男との人間関係が展開する。一人だけ無事だった男は自分が偶然に助かったことを証言して貰うために患者たちの記憶を回復させようと、爆発時の切羽の模型を作っている。患者たちは記憶を失っているために、本当は自分が誰だか分からないという不安の内に生活している。ホモのように仲の良い二人の患者は実は以前は三角関係で憎しみあっていた噂されるが、妻たちと面談しているうちに、その噂は妻が離婚するために仕組んだ策略だったということもあり得るということで、妙な関係になる。新しく訓練員に雇われた女は実は患者の妻だが、夫が記憶を取り戻せないなら、新たな恋人として愛情関係を始めようとするが、夫は別の女を好きになるなどなど。記憶喪失者を登場させて、発話主体とセリフとの関係に揺らぎを起こさせる技法がこの戯曲から始まるようだ。レタスとパプリカとトマトのサラダを作って、カレーで夕食。仮眠。9時過ぎ仕事場に行き、帰ってきた麻理がアマゾンで初めて本を買うのを手伝う。それから昼間撮った[枯れた猫じゃらし](#)をBlosxomblogに入れる。「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、林檎、薩摩芋、菓子若干、牛乳。そして薬とサプリメント。また仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書く。

00:58:33 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-19

カレーを作って、清水邦夫作『逆光線ゲーム』を読む。

18日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』に書いてあった例え話の、「気球」と昨日書いたが、それは「飛行船」で、わたしの記憶違いだった。今日のところでは、そのゾンビが操縦する飛行船が緊急事態になった時、周囲の情報を報告す

るグループがそれぞれの情報を叫ぶので、船内は一時的に混乱するが、情報を統制するグループが筋道をつけると書いてあった。昨日と一昨日に読んだ清水さんの戯曲の「セリフ」が登場人物の真情を語るように書かれているように思えて、図書館から借りている本なので、その一部をスキャナーでコピーしてMacにテキストで取り込む。大根の煮付けの残りのご飯で、麻理と昼食。ベッドで仮眠。テレビの「新・京都迷宮案内」の再放送をうとうとしながら見る。3時過ぎに、カレーの食材を買ってきてから麻理は出掛け、わたしは米をといでご飯を炊き、カレーを作り始める。出来てから、コーヒーを飲み、夕刊を見ながら相撲のテレビ中継を見る。豊ノ島が高見盛に勝つ。仕事場に行って、[ハイビスカスの蕾](#)をBlosxomblogに入れる。野村健太さんから、かれのBlog「[みみのまばたき](#)」に、わたしの映像作品『極私的にEBIZUKA』と『山北作業所』について書いたというメッセージが来たので読む。詳しく書いてあるので感激する。清水邦夫作『逆光線ゲーム』（1962）を読む。途中まで読んで、トマトを切って、カレーで夕食。ベッドに横になって「新・はんなり菊太郎」を見る。仕事場に降りて、『逆光線ゲーム』を読み終える。内容は、戦時中中国で生体解剖をやった医者が開業している田舎町の医院での、医者、息子と、看護婦で息子の妻と、姉と、家出していて戻ってきた妹と、お節介焼きの青年の患者と、生体解剖に立ち会って頭が変になって解剖の現場を話さないではいられない元衛生兵との複雑な人間関係の中で、最後に元衛生兵が殺されるという話。読み終わって、「灰皿町blog日記」を書いたら11時20分になっていた。風呂に入って、出てから林檎、薩摩芋、最中、牛乳。薬とサプリメント。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書く。

01:09:22 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-18

清水邦夫作『明日そこに花を挿そうよ』を読む。

17日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、意識は脳内に生まれた表現として、それを説明する例え話を書いてあった。意識を、脳の働きは人間と変わらないが内的な体験というも持たないロボットのようなゾンビの一団が操縦する気球に例えた話で、乗組員はプロペラを回す集団、周囲の光や音の変化を、一つ一つの色、一つ一つの音階をそれぞれ分担して捉える集団、その情報を基に操縦する集団に別れて、それぞれが連絡しながら気球を動かしている、という話。清水邦夫作『明日そこに花を挿そうよ』（1959）を読む。内容は、引き揚げ者住宅に住む二家族の話で、一階には酒飲みの父親と大学に行くためにお金を貯めている長兄とカナリヤを買ってきたりギターを弾いたりする弟の家族が住み、二階には何もしないが夢を抱いている若い娘とその逞しい母親が住んでいる。父親が長兄の貯金を見つけて飲んでしまったことから、長兄がやけを起こしてカナリヤを殺してしまい、それを兄弟で埋めに行った後で思い違いと手違いで、長兄が父親を刺し殺してしまうことになる、というもの。題名は娘の最後の幕切れのセリフ。親と子の世代の意識のずれが描かれている、ともいえる作品。麻理とインスタント春雨スープおじやで昼食。仮眠。[シクラメンの花を下から撮って](#)、Blosxomblogに入れる。石田尚志さんからのメールに、横浜美術館で制作中の作品の完成を見に行けそうもないので残念、と返信する。コーヒーを飲んで、夕刊を読み、相撲中継を最後まで見る。豊ノ島が外掛けで春日王を見事にひっくり返したのが印象的だった。昨日の大根の煮付けとみそ汁と温めて、一人で夕食。ベッドで仮眠。8時過ぎに仕事場に戻って、今まで読んだ清水邦夫さんの戯曲のラストシーンをメモする。登場人物たちが死んでしまうという終わり方が多いような気がする。津ヶ谷伸子さんからお見舞いに野菜を送ってくれたというメールが来る。ありがと返事を書く。それから、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、林檎、薩摩芋、お菓子、牛乳。薬とサプリメント。また仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書く。

00:55:13 - shirouyasu - No comments



## 2007-01-17

清水邦夫作『恋する人々』と『朝に死す』を読む。

16日に朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、意識と脳の関係について三つの条件が書いてあった。意識が働くためには①脳が活動していること、②脳の特定の部分が活動していること、③同一の種類の活動が続くことと書いてあった。麻理が仕事に出掛ける前に、図書館に行って「清水邦夫全仕事 1958～1980, 1981～1991」全四巻を借りて、つみれとこんにやくなど買ってきてくれた。麻理が出掛けた後、洗濯物を干し、昨日カジキと大根を煮た鍋に出汁に出た汁が残っていたので、そこに再び大根とつみれとこんにやくと卵を入れて煮た。煮えたらまた毛布でくるんでソファの上に置いた。仕事場に行って日録をノートして、mixiを見てメッセージを送ったりした。それから、昨日の大根の余りとご飯と佃煮で昼食。寝室のベッドで仮眠。「はぐれ刑事純情派」の後半を見ながら眠ってしまう。3時半廻って起きて、コーヒーを飲んで、シクラメンの花のアップを撮って、仕事場に行き、清水邦夫作『恋する人々—軍都とダンディズム』(2000)を読む。内容は、昭和11年の初夏の北陸の軍都にある営業してない古い写真館を、自分たちの倶楽部にしようとして借りに来た将校たちと、その写真館の持ち主の女性たちとの間に、ちょっと気が触れたように思われている男と少年を交えて、儂い愛情の芽生えが生まれるが、国家主義の時代の流れがそれを押し流してしまうというもの。居間に行って夕刊を見る。ワカメとジャガイモのみそ汁と作って、大根などの煮付けで一人で夕食。ベッドで仮眠。タレントがオリンピックの体操選手を生んだ高校を探訪するテレビ番組を半分眠りながら見る。8時過ぎに風呂に火を付けて、仕事場に行き [シクラメンの花のアップ](#) をBlosxomblogに入れる。それから清水邦夫作『朝に死す』(1958)を読み、「清水邦夫全仕事1958～1980」の最後に載っている「磨り硝子ごしの風景I—自作解説にかえて」を読む。『署名人』から『真情あふるる軽薄さ』を書くまでの自伝が書かれていた。『朝に死す』の内容は、夜、コンクリートの壁に沿ったところに足をピストルで撃たれた女を負った男が来て倒れる。男は仲間を裏切って追われている。男を狙った弾が女に当たったのだ。女は自分を捨てて逃げろというが、男は逃げられない。夢を持つ女と、夢の無い男の会話が続く。朝になり、男は女の言葉に従って、二人で走り去ろうとする。その時追ってきた仲間に撃たれて、二人とも死んでしまう、というもの。それから「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、林檎、薩摩芋、ビスケット、煎餅、牛乳。薬とサプリメント。また、仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書く。

00:53:37 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-16

青山病院で股関節のMRIを撮られる。

15日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、血流や神経伝達物質の測定で何処まで「意識」が割り出せるか、その難しさが書いてあった。被験者に「バラ」という言葉を思い出して貰って、それを測定したとして、彼の頭の中に生まれた意識は「綺麗なバラのイメージ」なのか、「バラを剪定すること」なのか、「バラの香」なのか分からないというわけ。シクラメンの花を撮って、仕事場に行って日録ノート。メールに返事。12時過ぎにインスタント春雨スープおじやを作って食べる。1時前に麻理がタクシーを拾ってきて、それに乗って青山病院へ。MRIを撮る部屋に行き、早く行き過ぎたせいもあるが、待合室で、テレビで七福神の弁天様と恵比寿様の格好をした黒柳徹子と小沢昭一の姿を見ながら1時間ぐらい待って、下着一枚になって股関節のMRIを撮られた。3時頃終わって、青山病院前からタクシーで帰宅。薩摩芋を蒸かし、コーヒーを淹れて飲む。それから、昨日のホタテと大根を煮た鍋で、残っている汁に今度はカジキと大根を入れて煮る。その間、テレビで大相撲中継を見る。高見盛が琴欧州にぎりぎりところで反転されて押し倒される。今日も、煮えた鍋を毛布にくるんで置く。夕刊を見て、年賀はがきの

「お年玉抽選番号」を見る。切手が当たったものが2枚あった。麻理が帰ってきてワカメとジャガイモのみそ汁と作って、カジキと大根の煮付けで早めの夕食。食後、寝室のベッドで仮眠のつもりが、眠ってしまう。8時過ぎに起きて、仕事場へ行って、[シクラメンのビクトリアの花を一つ](#)Blosxomblogに入れる。それから、昨日の続きで、[Webサイトの「清水邦夫著作リスト」](#)の作品の内容に全部目を通した。細かい内容は分からないが、舞台となる場所と登場人物と構成と、舞台の印象がおおよそ分かる。それで、明日、麻理が図書館で「清水邦夫全仕事」を借りてきてくれるというので、全部は読めなくても、読むべく作品の目星が付けられる。ここでようやく劇作家の清水邦夫と出会っている感じだ。「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入る。出て、林檎、薩摩芋、お菓子半欠け、牛乳。仕事場に戻って、「灰皿町blog日記」を書き終える

00:45:27 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-15

清水邦夫作の二つの『リターン』を読む。

14日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』は、第4章「意識はこうして作られる」に入り、「意識」を「やっかいな問題」としてあつかうのでなく、「やさしい問題」として、つまり物質的な因果関係として分かっている方から組み立てていくということだ。先ず、脳の働きを外から測定するいろいろな機器について書かれていた。[冬に日差しに光る庭のメキシカンセージの花](#)を撮る。仕事場に行って、清水邦夫作『リターン—海へ...ヘミングウェイ幻想』を読む。内容は、鬱病になった晩年のヘミングウェイが病室にボートを持ち込んで、メンタル・リハビリテーションとしてカツラを着け、化粧したりして母親を演じたり、自分の作品の「老人と海」の老人を演じたりする一人芝居が始めから終わりまで延々と続くというもので、凄まじい印象を受けた。この芝居はかつて米倉斉加年が演じる舞台を見たことがある。2時過ぎにあぶらげと長ネギの汁蕎麦を作って一人で昼食。寝室のベッドで仮眠。旭川動物園の冬の動物たちの姿をうとうと見る。麻理が大根とホタテとカジキなど買ってきたので、ホタテと大根を煮る。煮えたら、鍋のまま毛布に来るんで置く。コーヒーを淹れて飲む。仕事場に降りて、『リターン—陸へ...サムトの女たち』を読む。内容は、内陸の小都市の回転木馬などが放置されたままになっている「祭りの場」といわれる空き地で、東京から来た老女優とその妹が互いのこれからの人生を語り合っていると、かつて彼女たちが女学生の頃に通った映画館「北国シネマ」の経営者だった老女が、老女優をアメリカに渡って事故死してしまった娘が戻ってきたものと思いこんで話しかけ、老女優も老女の幻想を演じて見せるといもの。読み終えた後、清水さんの作品のわたしの手持ち作品以外のものについて、[「清水邦夫著作リスト」](#)というWebサイトで、初期作品から作品の内容を一つ一つ見てみる。7時頃、麻理が茄子のみそ汁と作って、大根とホタテの煮付けとで夕食。毛布に来るんであった鍋はそのまま、火に掛けたように温かい。寝室のベッドに横になって、NHK大河ドラマ「風林火山」を見る。風呂に火を付けて、仕事場に行って日差しに光るメキシカンセージの花をBlosxomblogに入れる。mixiを見てから、風呂の火を止める。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」をここまで書いてから、風呂に入る。出てから林檎、薩摩芋、煎餅を食べ、牛乳を飲んで、薬とサプリメントを呑む。草多がDVDで見ているハイジャック映画の最後のところを居間のテーブルで見ってしまう。仕事場に行き、「灰皿町blog日記」を書く。

00:52:18 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-14

清水邦夫作『わたしの夢は舞う—會津八一博士の恋』を読む。

13日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、人間を単なる意識を持った存在から区別するものは、感動とか苦悶とか恋とかという、要するに主体意識で

はないかと書かれていた。[庭のジャクヤクの芽](#)を撮る。仕事場に行って、津ヶ谷伸子さんが送ってきた写真の一枚一枚の感想を書く。蕎麦を茹で、大根とあぶらがが入った汁蕎麦で昼食。ちょっと仮眠。テレビで津波警報。津ヶ谷伸子さんの写真をポストに出しに行く。コーヒーを淹れて飲む。仕事場で清水邦夫作『わたしの夢は舞う—會津八一博士の恋』（1996）を読み始める。半分読んだところに、麻理が帰ってきて、生春巻きと、ほうれん草とキノコの巣ごもり卵を作って、みそ汁とで、7時前に夕食。麻理はまた出掛けて、わたしはベッドで仮眠。NHKのつまらないクイズ番組をうとうとと見る。仕事場へ戻って、『わたしの夢は舞う—會津八一博士の恋』の後半を読み終える。内容は、1932年五・一五事件があった日の三日後の高橋きい子が歌人で早稲田の美学教授の會津八一の家「秋艸堂」に来た日から、終戦の1945年の7月10日のきい子が肺結核で死ぬ日まで、會津八一と、（劇の中では語られてないが、）後に養女になる高橋きい子との年齢が離れた愛情の関係を主軸に、彼らを取り囲む弟子たちの人間関係と、北一輝の存在が影を落とす社会状況が語り出されるというもの。読み終えて、風呂に入り、出てから、ジャクヤクの芽をBlosxomblogに入れるのを忘れていたので入れる。そして、居間で林檎と薩摩芋を食べて、牛乳を飲み、薬とサプリメントを呑む。それから仕事場に降りて、「灰皿町blog日記」を書く。

00:07:14 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-13

ブロック注射の結果の診断。

12日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、人間は意識の意識、つまり意識という概念をもつということが、単なる意識を自己組織体とは違うという説明がゾンビを例にして書かれていた。庭の外に出て[白いカニサボテンの花](#)を撮って、仕事場に行ってBlosxomblogに入れる。Webで平家物語の「祇王」について調べる。麻理がおでんの具を足して煮てから出掛けたので、それを少し昼食代わりに食べる。1時過ぎに着替えて家を出て、坂の下でタクシーが来るのを待って拾って青山病院へ。整形外科で順番を待って、2時半ごろ小澤医師の「仙骨裂孔ブロック注射」をこれまでに4回やった後の結果の診断を受ける。まず、わたしの歩きを見て、次にベッドに横になって痛む右脚を伸ばしたり、いろいろな仕方曲げたりしてどの点で痛くなるかを見て、腰も膝もレントゲンでは異常が無いので、今度は腰骨をMRIで撮ってみて、点滴への移行を決めるということになった。ということで今日は診断だけ。来週のMRIの予約と説明を受ける。会計で再診料210円の支払いを済ませて、病院の門のところでタクシーを拾って帰宅。そのタクシーの運転手さんが自分たちの収入の格差がひどくなったのはタクシーの台数の自由化をした小泉のせいだと怒っていた。また、テレビの民放のお正月のタレントがぎゃーぎゃー騒ぐ番組にも怒っていた。そして、バラバラ殺人事件の若い夫婦が住んでいたマンションの前を通ったとき、ここだと指を差して教えてくれた。家に戻って、コーヒーを飲み、丁度来た夕刊を見ながら大相撲中継を見る。その後、3年前の秋、青山病院で別の医師に掛かった時に10回点滴をしたことを日録で見る。あの時は痛みが消えたのだった。7時頃、おでんを温めて夕食。寝室のベッドに横になってちょっと眠る。風呂に火を付けて仕事場に行き、清水邦夫作『愛の森—清盛をめぐる女人たち』（1995）を読み終える。内容は、北国の浜近くに都落ちした祇王、祇女、その母ふね、源三と名乗った忠度たちと、彼らを匿っている正綱が、源氏の平家残党狩りが迫ってくるというところで、祇王の前で仏御前を演じる女は荒々しい英雄主義の清盛を愛し、気が違った祇王は海や森を語る優しい忠度を愛し、また祇女は年上の正綱を愛し、というそれぞれの愛情の形が語り出されるというもの。読み終わってから、「灰皿町blog日記」をここまで書いて、風呂に入る。風呂から出て、林檎、薩摩芋、乾燥芋、ケーキなど食べ、牛乳を飲み、薬とサプリメントを呑む。仕事場に行って、「灰皿町blog日記」を書き上げる。

00:29:56 - shirouyasu - No comments



## 2007-01-12

清水邦夫作『わが夢にみた青春の友』を読み終え、『愛の森』を読み始める。

11日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、自己組織体「プラブ」が意識を持ったとしても、人間とは違う、その違いは人間が「言語」を持つということだかいてあった。家の飼い猫のママニの日向ぼっこを撮って、仕事場へ。清水邦夫作『わが夢にみた青春の友』を読み終える。内容は、昭和14年の信濃川の近くのガラスの廃工場を舞台に、満蒙開拓団から逃げ帰ってきて、この工場に潜んで、狂気を装っている「ぐれ健」という男を中心に、彼があこがれている12歳年上の小学校の女先生、彼の妻と同棲している召集令状が来た弟、娘、娘の恋人の先生のやはり召集令状が来た息子、猟友会の仲間などの心理的關係が展開するというもの。読み終えて、麻理とカレーうどんで昼食。食後、ちょっと仮眠。麻理が買ってきたおでんの食材を煮始める。麻理出掛ける。煮終わって、鍋ごと毛布にくるむ。コーヒーを飲み、丁度来た夕刊を見ながら、相撲中継を見る。相撲が終わって仕事場に行き、Blosxomblogに[猫の日向ぼっこ](#)を入れてから、清水邦夫作『愛の森—清盛をめぐる女人たち』(1995)を読み始め、第二場まで読み、おでんで夕食を食べようとしているところに麻理が帰って来て一緒に食べる。寝室のベッドに横になってNHK時代劇「新はんなり菊太郎」を見て風呂に火を付けて仕事場へ。メールを見ると、「『フィルム文化を存続させる会』賛同人メールニュース No.5 2007.1.11★」で「[富士フィルムからHPにてシングル8継続の発表](#)」という記事が送られてきていた。シングル8のフィルムの製造販売と現像が存続するという事になった。若いフィルムメーカーに取っては朗報だ。ユーザーがメーカーを動かすなんて、わたしには思いも及ばなかった。「灰皿町blog日記」を途中まで書いて、風呂に入る。出てから、林檎、薩摩芋、煎餅、牛乳、葉とサプリメント。また仕事場に来て、「灰皿町blog日記」を書き終える。

00:38:21 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-11

多摩美映像演劇学科授業の最後の採点。

10日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、「選択」を行うということとは、比べるということで、そのためには比べる記号化されたデータを記憶して置く必要があり、更に選んだ結果を予測することにもなる。脳の中にそういうことをするモジュールが作られて、モジュールの間にネットワークが生まれ、脳の中でモジュール間の遣り取りが行われるようになり、それが意識の萌芽ということになる、というようなことが書かれていた。仕事場に行って、日録ノート。[一昨日庭にメジロが来た](#)のを、麻理がビデオに撮っていたので、そのテープから画像を取りだして、Blosxomblogに入れる。今日来た年賀状への返事をプリントして、昨日の分と一緒にポストまで歩いて行って投函する。歩くのが少し楽になっている感じが、坂で踏ん張るのがきつい。戻って、野村健太さんの「[みみのまばたき](#)」に載った『[内面のお話](#)』の感想を読み、mixiでお礼のメッセージを送る。2時頃、麻理がはるさめ入りスープおじやを作って昼食。食後、多摩美映像演劇学科の授業「ドキュメンタリー映画論」の後期試験の答案の採点を始める。夕方終わって、速達にしてポストに出すために玄関を出たら、丁度太陽が沈むところで夕焼けが綺麗だった。今日は2度ポストまで歩いた。家に戻って、コーヒーを飲んで、夕刊を見ながら相撲の中継を見る。高見盛が豊真将に勝つ。それから、昨日の南瓜の煮付けを温めて、長ネギのみそ汁を作って、一人で夕食。食べ終わったところに麻理が帰ってくる。寝室のベッドの横になって、高血圧を扱った「ためしてガッテン」を見て、続けて「相棒」を見る。シアターXの上田さんからお見舞いの電話があった。風呂に火を付けて、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、林檎、焼き芋、煎餅、牛乳。葉とサプリメントを呑む。それから仕事場で、清水邦夫作『わが夢にみ

た青春の友』(1995)の半分を読む。

00:50:22 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-10

清水邦夫作『冬の馬』を読む。

9日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、「ラブ」が外部からの刺激に対して行動を選ぶ、つまり「選択」ということが起こると書いてあった。[日差しに光るシクラメンの花](#)を撮る。仕事場に行って、日録ノーとして、「清水邦夫全仕事1992~2000」に収録してある『冬の馬』(1992)を読み始めて第一幕を読み終える。麻理から聞いたようにやって春雨入りスープおじやを作って遅い昼食。Blosxomblogにシクラメンの花を入れる。寝室のベッドに横になって「相棒」の再放送を見る。検事が切り裂き殺人魔だったという話。ご飯を炊いて南瓜を煮る。7時前に豆腐のみそ汁を作って夕食。ソファで横になる。それからNHK「クローズアップ現代」の「サウジアラビア」を見る。仕事場に行って、『冬の馬』を読み終える。内容は、還暦1年前の女性と実の息子の元妻の二人が、注文で古い形の銀時計を作っている仕事場を兼ねた店が舞台で、そこには既に亡くなった老いらくの恋で結ばれた夫の仕事机がそのまま残されていて、あたかもまだそこにいるような雰囲気がある。この仕事場に、その女性の実の息子と女性と同年の夫の連れ子が突然訊ねて来たのを、隣に住む女が窓から見ていて関係を誤解して話に加わり、当人たちもその誤解に合わせて会話したりして、実際の夫婦親子関係と、隣の女が見た夫婦親子関係が、二重になって進行していく内に、当人たちもあやふやになって行くというもの。ばらばらな人間関係が嘘と本当が混じった話に心をときめかし、新たな関係が生まれて来るということ。「灰皿町blog日記」を書いた後、風呂に入る。出てから、林檎と麻理が買ってきた焼き芋と最中を食べて、牛乳を飲み、6種類の菓を呑む。年賀状の返事をプリントする。

00:16:37 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-09

清水邦夫作『楽屋』を読む。

8日の朝は、昨夜、脚の痛みでよく眠れず、日が出て、BSのNHKテレビ小説を見終わる頃にうとうととしたので起きたのは10時を過ぎていた。朝食、朝刊、そしてトイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、想像上の自己組織体「ラブ」が内部器官の認識を持ち、更に記憶を持つようになって器官としての脳が発達するということが書いてあった。昨夜、渡辺洋さんから教えられた矢口書店に「清水邦夫全仕事」の在庫があるか電話すると一ヶ月前に売れたということだった。blogや「ZouX」などを見る。麻理がスープおじやを作って昼食。寝室のベッドに横になって、高校サッカーを見て、「相棒」の再放送を見る。コーヒーを淹れて飲んで、仕事場に行き、[二つ並んで咲いたシクラメンの花](#)をBlosxomblogに入れて、チャーホフ作『かもめ』を読み終える。7時廻って、麻理とカレーの残りサラダで夕食。ソファでちょっと横になる。仕事場に行って、清水邦夫作『楽屋』(1977)を読む。内容は『かもめ』が上演されている劇場の「ニーナ」を演じている女優の楽屋に住み着いた二人の女優の幽霊が、舞台上で主役を演じられなかった自分たちのことを言い争いしながらも語り合う筋と、元プロンプターで、精神病院から枕を持って抜け出してきた女優が、現在演じている女優に「ニーナ」の役を枕と交換で返してくれと迫り、怒った現女優に殴り殺されてしまうという筋が交錯して、最後に殺された女優が幽霊になって再び楽屋を訪れて、三人の幽霊女優が『三人姉妹』を演じるというもの。女優をやって生きたいという女性の気持ちが切実に伝わって来るところがある。「解説」には清水さんの一番短い題名で、一番上演回数が多い戯曲と書いてあった。読み終わってから風呂に入る。今日は林檎がなく、薩摩芋とケーキを食べて牛乳を飲み、菓を呑む。また仕事場に行って、「灰皿町blog日記」を書

く。

00:56:03 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-08

チェーホフ作神西清訳『かもめ』を読む。

7日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、「プラブ」が、餌を求めて運動して、感覚器官や手足ができ、その手足を交互に動かすために時間を認識するのいたる過程が、すべて突然変異によって起こっていくと語られていた。[日差しの中で葉を広げているカタバミの芽](#)を撮る。日録ノート。カタバミの芽をBlosxomblogに入れる。チェーホフ作神西清訳『かもめ』を読み始める。1幕目を読み終えて、かき揚げ天ぷら蕎麦を作って昼食。寝室でテレビを点けて、女子バスケットの試合を見ながらとうとする。その後、痛みのために脚と腰の置き方に困って、夜よく眠れないので、わたしのベッドに薄い布団を入れて、背中をやや高くしてみる。脚が痛いのでこの作業はちょっときつかった。コーヒーを淹れて飲み、大相撲の中継を見る。仕事場に行って、mixiを使って、渡辺洋さんに、古本屋を覗くことがあったら、ついでに「清水邦夫全仕事」1958~1980、1981~1991全4巻1992年刊を探して欲しいとお願いのメッセージを送る。7時過ぎて、トマトとカレーで夕食。食後、寝室のベッドでNHK大河ドラマ「風林火山」を見る。風呂に火を着けて、仕事場に行って『かもめ』の第2幕を読んでから風呂に入る。出て、林檎、薩摩芋、煎餅、牛乳。葉を呑む。mixiに渡辺洋さんからの返事があって、神田の古本屋でセットで売っているということを教えてくれた。ありがとう。でも、ちょっと値段が高い。洋さんに返事してから、「灰皿町blog日記」を書く。その後、『かもめ』の第3幕を読み終える。

00:24:41 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-07

チェーホフ作神西清訳『三人姉妹』を読む。

6日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、自己組織体が繁殖して、突然変異を繰り返して、意識を持つ生命体になっていく過程を「プラブ」という架空の自己組織体の存在で説明して書いてあった。椅子に座って脚を伸ばして20秒維持するというような軽い体操を始める。昨日のブロック注射で、これが出来るようになった。仕事場に行って日録ノート。チェーホフの『三人姉妹』の続きを読み、2幕を読み終わったところで、蕎麦を茹でて、わかめ蕎麦にして昼食。テレビを点けたら、落語家が「うどん」を語っていて、丁度食べるところで、こちらとあちらで食べる動作がシンクロしてしまい、思わずにやりとする。食後、『三人姉妹』の3幕目の途中まで読む。年賀状が来る。それに返事を出すはがきの枚数が足りなくなった。丁度帰ってきた麻理に買いに行きに行く。買って来た年賀はがきでプリントしようとしたら、今度はインキが無くなった。近所の文房具屋に電話して聞くと、プリンタのインキを売っているというので、また麻理に頼んで買って来て貰った。雨の中、2度の買い物、ありがとうございます。プリントを終える。ポストに出しに行ったのも麻理。夕方、映像演劇学科科長の福島教授からお見舞いの電話を貰う。麻理はその後下北沢にインプロの芝居を見に出掛ける。薩摩芋を蒸かす。それから、カレーを作る。7時過ぎて一人でカレーの夕食。食後、寝室のベッドに横になり、NHKの世界遺産「ベニス」を見ながらとうとする。風呂に火を付けて、昼間撮って忘れていた[雨の中のカニサボテンの花](#)をBlosxomblogに入れる。風呂に入り、出してから『三人姉妹』を読み終わる。『三人姉妹』を読んだのは、次に清水邦夫さんの作品『楽屋』を読む準備。そして「灰皿町blog日記」を書く。居間に行って、林檎、薩摩芋、煎餅、牛乳。それから葉。

01:08:05 - shirouyasu - No comments



**2007-01-06**

第4回目の「仙骨裂孔ブロック注射」を受ける。

5日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、意識をスパンドレルのようなものとして、その構造物としての人間の多様な認知能力を、進化論的に先ず宇宙生成時の分子のあり方から説明を始め、分子が結合して組織体を作り、そこで組織体の「内」と「外」ということが生まれて、その「内」に自己保存のための意図性が生まれるようになる、と書いてあった。意図性というのは花が太陽の方に向くというようなことと書いてあった。[アマリリスの鉢に生えたカタバミの新芽](#)を撮ってBlosxomblogに入れる。チャーホフの『三人姉妹』を読み始め、第一幕の途中まで読む。12時過ぎに麻理がスープおじやを作って昼食。1時過ぎに麻理にタクシーを拾ってきて貰って、青山病院の整形外科へ。2時過ぎに小澤医師の診察。治療方針として、「仙骨裂孔ブロック注射」がいくらでも効いているようだから、今日も「ブロック注射」をして、次の12日に診察で効いていたら、その後は点滴に変えるということ。「ブロック注射」は4回か5回がせいぜいでそれ以上はできないので、効かないのなら、入院して「腰部硬膜外ブロック」をする。ということで、準備でき次第4回目の「仙骨裂孔ブロック注射」を受けることになった。治療室がギブスをはめる人が使っているので待たされる。治療室が空かないので、看護師さんの計らいで空いていた診察室で小澤医師から「仙骨裂孔ブロック注射」を受ける。今日は、注射すると痛い方の右の太股と脚に圧迫感が走って、横になって寝ていると10分頃から痛くなり堪えるのが辛かった。15分過ぎると痛みは治まった。30分横に、30分上向きに安静にしてから終わる。かなりいい感じになった気がした。支払いを済ませて、病院の門まで歩いて、そこに来たタクシーを拾って帰宅。夕刊を読んで、仕事場に行って、今日来た年賀状を見て、返事を出す分のプリントの途中で、麻理がステーキが焼けたというので夕食。食後、寝室で「欣ちゃんの仮装大会」を見て仕事場に戻り、やりかけていた年賀状のプリントをすませて、坂の下のポストまで歩いて出しに行く。歩くのが辛いことは辛いけど、昨日よりちょっと楽になっていると感じる。蜜柑を一つ食べて、巨木となった庭木を切るのを職業にしている人の「人間ドキュメント 空師」を見る。空に近いところ仕事をするので空師というのだそうだ。それから、「灰皿町blog日記」を書く。居間に行って林檎を食べ、薩摩芋を牛乳を飲みながら食べる。

00:23:51 - shirouyasu - No comments

**2007-01-05**

清水邦夫さんの作品『ぼくらは生まれ変わった木の葉のように』を読む。

4日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、意識というのは、アーチなどの構造物が生み出す空間のスパンドレルのようなものではないかと書いてあった。日録ノート。今日来た年賀状の返事をプリントして、坂の下のポストまで歩いて行って、野村健太さんに送るDVDと一緒に投函する。暖かい冬の日だった。帰りの50メートルがきつい。2時過ぎていて、蕎麦を茹でて、麻理が買って来てあったかき揚げで天ぷら蕎麦の昼食。仮眠。コーヒーを淹れて飲む。仕事場に行って、書肆山田からfaxで送られてきた「るしおる」に載せる原稿の校正をする。加筆する分があったので、それと合わせて校正の部分ファイルを添えてfaxで送る。[赤いシクラメンの花](#)をBlosxomblogに入れる。それから、清水邦夫さんの36歳の時の作品『ぼくらは生まれ変わった木の葉のように』（1972）を読む。内容は、大学教授の夫と妻と妹が住む家に、夜中、放浪の旅をする男と女が盗難車を運転して突っ込む。女は妊娠していて、男は毛沢東の言葉を口にしたりするので左翼崩れと見える。この家の家族は、家を壊されたのに、怒るところか、二人を歓迎して持てなす。この家族はリルケの詩を口にしたり、ハムレットなどをその場で演じるのが趣味で、そのセリフの遣り取りに二人を巻き込んで行き、二人が立ち去るのを許さない。そして、遂に立ち去ろうとする二人に、立ち去るなら自分たちを殺してから立ち去って

くれと頼む。ナイフを持たされた男は、弾みで妹を刺し殺してしまい、夫婦から殺してくれとせがまれ、男は更に自分の殺意を盛り上げようとする、というもの。70年闘争の世相の反映が感じられる。8時頃麻理が帰ってきて昨日の残りのおでんで夕食。食後仮眠。風呂に入って、出てから、林檎、薩摩芋、牛乳。また仕事場に戻って、mixiやメールを見てから、「灰皿町blog日記」を書く。

00:04:04 - shirouyasu - No comments

### 2007-01-04

『衰退いろいろ2002』など4作品をDVDにダビングする。

3日の朝は、雑煮を止めて、サラダとハムトーストと紅茶のいつもの朝食に戻した。トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、脳のプロセスと意識との関係を結びつけるところが探られていた。日録を書いてから、『衰退いろいろ2002』と『極私的に臨界2003』をDVDにダビングしながら、見た。『衰退いろいろ2002』には、昨年映像演劇学科を卒業した福井さん新名さん清水君が1年生で「嘘の話」を語っているシーンがあって、懐かしかった。時間がどんどん過ぎていく。その時間というのが物の形を変えて、わたしの身体の場合は脊椎狭窄となったというわけだ。『極私的に遂に古稀』と『極私的な多摩王の感傷』もダビングした。これらのDVDは明日野村健太さんに送る予定。その後、年賀状の返事をプリントした。昼食は雑煮で餅二つで、食べながら「箱根駅伝」のゴールを見る。順天堂大学が優勝する。ちょっと仮眠。年賀状の返事を坂の下のポストに出しに行く。やはり帰りの坂がきつい。コーヒーを淹れて飲む。[今日続いて咲いたハイビスカスの花](#)をBlosxomblogに入れる。野々歩がネムちゃんを連れて、結婚する前に使っていた自分の部屋を片づけに来る。ダビングしたDVDにラベルを作って貼る。おでんで夕食。食後、眠くなって仮眠。風呂を沸かして入り、出てから林檎、薩摩芋、牛乳。仕事場に降りて、メールを書いたりして、「灰皿町blog日記」を書く。

00:33:07 - shirouyasu - No comments

### 2007-01-03

『内面のお話』など3作品をDVDにダビングする。

2日の朝は、8時過ぎに目覚めて「箱根駅伝」をベッドで10時前まで見て起床。麻理とワイン少々、おせち、雑煮で朝食。トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、脳の働きと意識とは関係ないことを証明するような実験、手を動かすのを意識をする前に脳波の準備電位が上がり、意識とな関係なく脳が手を動かしているように見える。意識はあくまでも脳のプロセスにとっては余剰なものなのか、と書いてあった。日録ノート。今日来た年賀状の出してなかった分の返事をプリント。ちょっと眠くなって30分ぐらい仮眠。コーヒーを淹れて飲む。Blosxomblogに[今日咲いたハイビスカスの花](#)を入れる。プリントした年賀状を坂の下のポストまで歩いて行って投函する。やはり、帰りの50メートルぐらいの緩い坂がきつい。『内面のお話』『極私的にEBIZUKA』『山北作業所』をDVDにダビングする。それぞれの作品の撮影現場を思い出して懐かしい。あと3作品ダビングして野村健太さんに貸すことにしている。タラコを焼いて、ハスとこんにゃくの煮付けとおせちとみそ汁で麻理と夕食。食後、昨日読んだ清水邦夫さん戯曲『狂人なおもて往生をとぐ - 昔、僕達は愛した』の「狂人なおもて往生をとぐ」が気になって、その元になっている親鸞の言葉の「善人なをもちて往生をとぐ、いはんや悪人をや」について調べる。親鸞についての解説では、人間そのものの存在を悪人と見なすという考え方で、「かくして親鸞は、同時代の現実世界の意義を徹底して否定し尽くすことによって絶対他力の信仰を構築したが、その否定の論理が、当時の庶民の日常生活の全面的な肯定へと転換しうるものであったことは見過せない」〔佐藤弘夫〕と「岩波哲学・思想事典」には書いてあった。この論理に従うと、清水さんの戯曲は「すべての人を狂人としてとらえ、その生き方を全面的に肯定している」ということになり

そうです。風呂に入り、身体を温めて、居間で林檎、薩摩芋、牛乳。仕事場に降りて、「灰皿町blog日記」を書く。

00:02:27 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-02

年賀状の返事を出し、夜はテレビ朝日のドラマ『相棒スペシャル』を見る。

2007年1月1日の朝、「30人31脚」という30人の小学生が二人三脚のように脚を縛って走る勝ち抜き戦を見てから起床。麻理と二人でお屠蘇代わりにワインで乾杯して、お雑煮とおせちを食べた。そして、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』に書いてあった火星の話は、拉致した地球人の脳の働きを子細に記録した末、原始的な生物で恐れることもなく、たいした価値もないと金星に向かって去った、ということで終わっていたが、火星人は「意識」の存在には気がつかなかったということで、意識は脳の働きを外から見たのでは解らないということなのだ。年賀状を見て、仕事場へ行って日録を書く。[華やかに咲いているシクラメンの花](#)をBlosxomblogに入れる。麻理が出す年賀状をプリント。年賀はがきが足りなくなつて、麻理に買ってきて貰う。分厚い新聞はただページをめくるだけという印象。眠くなって、ベッドに横になつてうとうとしながらサッカーの天皇杯戦を見る。コーヒーを淹れて飲む。わたしが出してない人から来た年賀状の返事をプリント。それをポストまで歩いて出しに行く。帰りの坂道が辛かった。mixiなどWebを見る。7時過ぎて、刺身、みそ汁、おせち料理などで夕食。ベッドで仮眠。9時からテレビ朝日の2時間半のドラマ『相棒スペシャル』を見る。それから風呂に入って、出てから居間で、林檎、薩摩芋、チョコレート、牛乳。仕事場に戻って、「灰皿町blog日記」を書く。

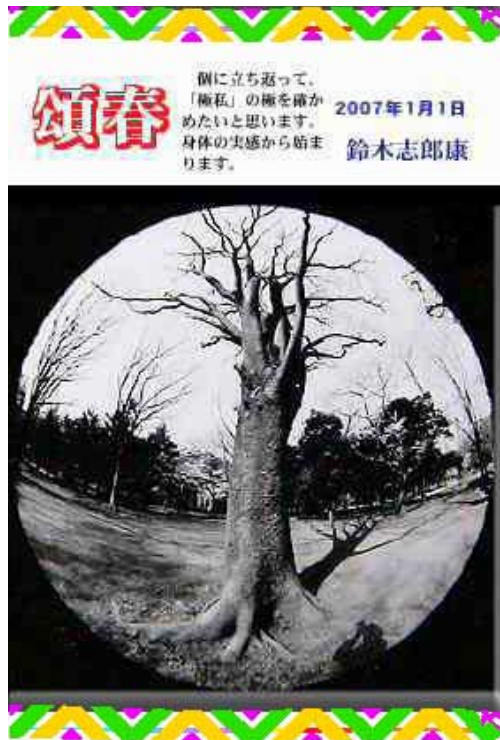
01:51:16 - shirouyasu - No comments

## 2007-01-01

2007年あけましておめでとうございます。

今年もよろしくお願ひします。





01:30:25 - shirouyasu - 2 comments

清水邦夫さんの『狂人なおもて往生をとぐ 一昔、僕達は愛した』を読む。

12月31日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、意識の働きを見るのに、ちょっと飛躍した書き方が使われていた。というのは、火星人が地球人を光線銃で意識を失わせて、彼らの実験装置に運び込み、地球人が意識を取り戻す過程の脳の様々なニューロンの働きを記録するという虚構で書かれていた。扁桃体とか前頭葉とか次々に刺激が伝わって行く過程が書かれていたが、わたしはどうもその辺りが覚えられない。トイレから出て、麻理が麻理流のヒーリング体操、音楽を掛けて身体の中からの声を聴いて身体を動かすというのをやっていたので、わたしも真似して身体を動かしてみる。それから仕事場に行って、この二、三日書いてなかった日録を書く。途中で、麻理に頼まれて彼女の年賀状を印刷する。その後スープおじやで昼食。仮眠。コーヒーを淹れて飲む。薩摩芋を茹でて、その間に日録の続きを書いて、アラームが鳴ったので、ガスの火を止めに行く。仕事場に戻って、[キャットテイルの花](#)をBlosxomblogに入れ、Web用の年賀画像を作る。それから清水邦夫さんの『狂人なおもて往生をとぐ 一昔、僕達は愛した』(1969年作者33歳の時の作品)を読む。二幕目まで読んだところで、7時過ぎて、麻理と夕食。年越し蕎麦を兼ねた天ぷら蕎麦。食後仮眠。「紅白歌合戦」をちらっと見たが興味が湧かなかった。風呂を沸かす。フィギュアスケートの番組の頭を見てから、仕事場に行って、『狂人なおもて往生をとぐ 一昔、僕達は愛した』を読了。内容は、教育学の教授夫婦と息子二人と娘一人の家庭が舞台で、長男が狂ってしまっていて、自分の家を売春宿と思いこんでいて、母と姉を娼婦と、また父と弟をその売春宿の客だと思いこんでいる。家族たちはこの兄の言葉に合わせて「家庭ごっこ」をやる。ある日、弟が婚約者を連れ来て、彼女をその「家庭ごっこ」に巻き込んでいくうちに、婚約は破綻し、実はこの家族は一家無理心中したことがあって、兄の狂気はそれが原因だと分かってくる。最後には、きょうだい三人が家を出て行くということになる。読み終わって、居間に行って、フィギュアスケートの高橋選手と浅田選手の演技を見て、それに金メダルの荒川静香のイナバウアーを久しぶりに見た。それから、風呂に入って、NHK「行く年来る年」の除夜の鐘を聞きながら、林檎、薩摩芋、一口羊羹、牛乳。年が明けて、「おめでとう」のアナウンスを聞いて、仕事場に戻り、「灰皿町blog日記」を書いた。ということで、痛む脚腰に難儀しながら、

わたしの2006年は終わった。

01:15:50 - shirouyasu - No comments